

# 教師力・保育力 UP セミナー (報告)

滋賀大学教育学部  
附属幼稚園

滋賀大学教育学部附属幼稚園では、市立幼稚園の規模縮小による OJT の課題や、保育園・こども園における研修時間確保の課題に対して、県内外の就学前施設及び小中学校教職員を対象に校種を超えて学びあえる機会として「教師力・保育力 UP セミナー」を企画し、令和6年度中に2回開講した。

## 「運動遊びってなんだ」 参加者37名(幼・こ・小教員)

就学前施設での体を動かす遊び、小学校低学年体育科での運動遊び。しかし、遊びだけでは育てたい力を付けていくことが難しいのではないだろうか。「運動遊び」を理論、実践として深めることをテーマとした。



教師力 UP セミナー  
教師の資質向上・能力向上 非日常の対話から気づく・学ぶ 主体的・対話的で深い学びを支える

### 「運動遊び」ってなんだ?

幼年期体育・運動遊び研究会：幼体研

「運動遊び」という言葉はもちろんご存じだろう。  
日常的に保育や学校教育で使われているのだが・・・さて、それはなんだ。  
幼稚園教育では、遊びを中心とした総合的な指導をおこなう。小学校第1学年、第2学年体育科の内容は「体づくりの運動遊び」「器械・器具を使つての運動遊び」「走・跳の運動遊び」などとなる。「遊び」であつて、なお、指導、教科であつて、なお、「遊び」。  
・・・さて、保・幼・小、混ざつて共に語り合おうじゃないか。

日時 令和6年6月8日(土) 9:30~11:30  
場所 滋賀大学教育学部附属幼稚園 なかよしホール  
内容 提言 幼稚園・小学校における運動遊びの実践について  
グループトークセッション 「これからの運動遊びを考える」  
ゲスト 内藤 康司 先生 大津市立石山小学校校長(大津市小体連顧問)  
NAVI. 大矢 明 滋賀大学教育学部附属幼稚園 副園長

ご参加いただける方は Forms QRコードからお申し込みください。多くの方のご参加をお待ちしています。お誘いあわせてお越しください。突然はありません。たぶん、車でお越しの方は附属学校校舎裏 幼稚園駐車場をご利用ください。  
問い合わせ 大矢 [g-coyo@edu.shiga-u.ac.jp](mailto:g-coyo@edu.shiga-u.ac.jp) 077-527-5257 <https://forms.office.com/r/VvchAqSxVb>

心も体も笑顔も気持ちよく



## 運動“遊び”指導と「心」の育ち

### 課題志向

- ・新しい経験
- ・工夫、努力などの過程
- ・すべての子供に有能感

遊びとしての運動指導  
もっとやりたい、こうしたいと新しい世界を広げる  
すべての子供が有能感をもつことができる

### 成績志向

- ・人より優れること・勝つこと
- ・より上達すること
- ・勝つ子、上手い子は有能感

特定の運動の上達を目指す運動指導  
できる子・できない子、上手な子・下手な子  
有能感をもつことができるのはできる子・上手な子

運動能力の向上→自信・積極的・粘り強さ・旺盛な好奇心・社交的・明るさ



「運動遊び」はあくまでも「遊び」である。しかし「楽しさ」よりも「できる、できない」の成績志向での評価になってしまいがちである。遊びとしての多様なとりくみ、多様な評価をすることによって、子供たちの楽しい運動遊びは、質・量とも高まっていくのではないだろうか。「教科」と「遊び」を考える中で、子供たちが主体となって自信をより高めようとする姿を求めていくことを大切にしたい。附属幼稚園での実践報告、参加者同士の意見交流、ゲストの大津市小体連顧問内藤先生からの講話など、「運動遊び」について深く学びあうことができ、各所属での実践につながるご期待につながるセミナーであった。

## 「やってみよう！」からはじまる生活科 参加者35名(幼・こ・小・中教員、一般)

就学前の幼児教育と小学校教育の接続教科ともいえる「生活科」。小学校学習指導要領「生活科」を読むと、生活科の目標や育成を目指す資質・能力や学び方については幼稚園教育要領等と同様であることがわかる。生活科について深く読み込むことによって、幼児教育と小学校教育における、「自然、社会、周りの人々との関わり」の中での気づきや、その深まり、そして子供たち自身がより豊かな生活を目指す遊びと教科のありかたが見えてくるのではないだろうか。



保育者・教師の資質向上  
非日常の対話から気づく・学ぶ  
主体的・対話的で深い学びを支える

保育力・教師力UPセミナー  
「やってみよう！」

からはじまる

生活科

日時 令和7年1月18日(土)  
9:30~12:00

場所 滋賀大学教育学部附属幼稚園  
なかよしホール

内容 ・学習指導要領解説生活科  
からひも解く「生活科」

・附属幼稚園・小学校の取組  
から実践を振り返る

・だれでもフリーで参加できる  
シンポジウムみたいな

主なシンポジウム参加者(敬称略)

幼児期教育センター 井川 克子  
大津市教育センター 松尾 誠史  
長等幼稚園保育主任 青木 香里  
附属小学校2年担任 寺田 実  
講師・講師 大阪総合保育大学 瀧川 光治

ファシリテーター  
附属幼稚園 副園長 大矢 明

ご参加いただける方はforms QRコードからお申し込みください。  
多くの方のご参加をお待ちしています。お問い合わせはお越しください。  
車でお越しの方は附属小学校舎裏 幼稚園駐車場をご利用ください。  
問い合わせ 大矢 a-ooyo@edu.shiga-u.ac.jp 077-527-5257

<https://forms.office.com/r/TgIgwambu>



附属小学校2年生の生活科の実践、附属中学校 BIWAKO TIME 参観では、幼稚園からの学びを基礎としながら、その気づきを自らの学びとして深めていく児童、生徒の様子が報告された。また、教師自身がわくわくしながら、児童、生徒と共に授業を創り出していく様子に、参加者からも多くの意見があった。

幼児期教育センター指導主事、大津市教育センター主査、幼小教員によるシンポジウムでは、生活科における見方、捉え方、学び方や、幼児教育と小学校教育の「違いと同じ」についてなどが話題となり、フロアからも今後に向けての取り組みなどについて多くの意見が出された。これからの幼児教育と学校教育の接続と連携について、グループ間で様々に意見を交わし合い学びにつなげることができた。大阪総合保育大学教授 瀧川光治先生に総括として10の姿や、資質・能力を共通言語として幼児教育と教科教育をつないでいくことを今後の取組として提案いただいた。

## 教育界に求められる滋賀大学教育学部附属幼稚園として

県内外の幼児期教育ネットワークのハブとして、今日の教育課題について実践を通して探究する機会をつくり、参加者の意識変革による教職員としての資質向上、実践の深まりにもつながった。このような取組は、滋賀大学教育学部附属園としての使命を具現化したものであり、広く発信していきたい。